

決算プラットフォームを導入して決算業務をデジタル化するためには、決算業務の標準化が必要であるため、経理業務の特徴である属人化を防ぎ、決算業務そのものを可視化できることでガバナンス強化にもつながる。

また、決算プラットフォームは監査対応のリモート化、効率化にも貢献する。会計監査人にも決算プラットフォームを利用可能とすることで、会計監査人も進捗状況を確認したり、証拠データを確認しながら監査を進めることができる。これにより、メール等を利用したやり取りやデータ送付なども減らすことができ、監査対応をトピックのデイスカッションに重点を置くことができる。

横谷 直政(よこや・なおのり)
有限責任監査法人トーマツ
リスクアドバイザー事業本部アカウンティングアドバイザー シニアマネジャー
公認会計士
2004年トーマツ入所、本邦企業や中国現地企業の監査、M&Aに係る財務デューデリジェンス・株式評価業務等に従事。
2009年より、IFRSアドバイザーグループ(現アカウンティングアドバイザー)に所属し、IFRS移行や財務会計を中心とした経理業務フローの整備・構築に関する助言指導業務等を提供している。

第5章

事業継続のための最重要課題 資金確保をめぐる BCP策定上の留意点

有限責任監査法人トーマツ
公認会計士・米国公認会計士

大川 隆

【この章のエッセンス】

- 資金繰りの確保は、事業継続を考えるうえで最重要項目の1つである。
- 不確実性の高い事業環境の続くなかで資金繰りの確保を確かなものにするためには、資金繰り計画の精緻化とそのリスクシミュレーションを実施し、リスクに備えた資金ニーズを把握したうえで、適時に適切な方法による資金調達の準備を行うことが肝要である。

COVID-19の影響が常態化するなか、事業継続を確保するうえでも重要なことの1つは、資金繰りの確保を行うことである。本章では、財務部門が中心となって行う資金繰り確保のための施策として、①資金

繰り計画の精緻化とリスクシミュレーション、②個々の運転資本(営業債権、営業債務、棚卸資産等)ごとの対応、③外部資金調達等における検討事項のそれぞれにつき、対応策とその留意点について記載する。

資金繰り計画の精緻化 とリスクシミュレーション

将来の資金ニーズを正確に把握し、必要な金額を適時に適切な資金調達手段で実行するため、正確な資金繰り計画を作成することは重要である。どのタイミングで、どの通貨を、どの手段で調達することが必要か、という実態の把握と精度の高い予測なし

にこれを実施することは困難である。COVID-19下では、将来の資金繰り上のリスクを検討のうえ、想定されるリスクシナリオに基づくシミュレーションを実施し、最悪の事態も想定したうえでの資金確保を行うことが、確実な事業継続を支える基盤となるものと考えられる。

(1) 資金繰り計画の精緻化

資金繰り計画の精緻化への第一歩は、まず資金繰り実績の正確な把握である。まずは過去2〜3年分、12カ月の資金繰り実績をレビューし、経常的な収支項目を把握するとともに、時季ごとのイベントに応じた収支サイクルと運転資金残高のトップとなる時期、ボトムとなる時期等を把握しておくことが必要である。